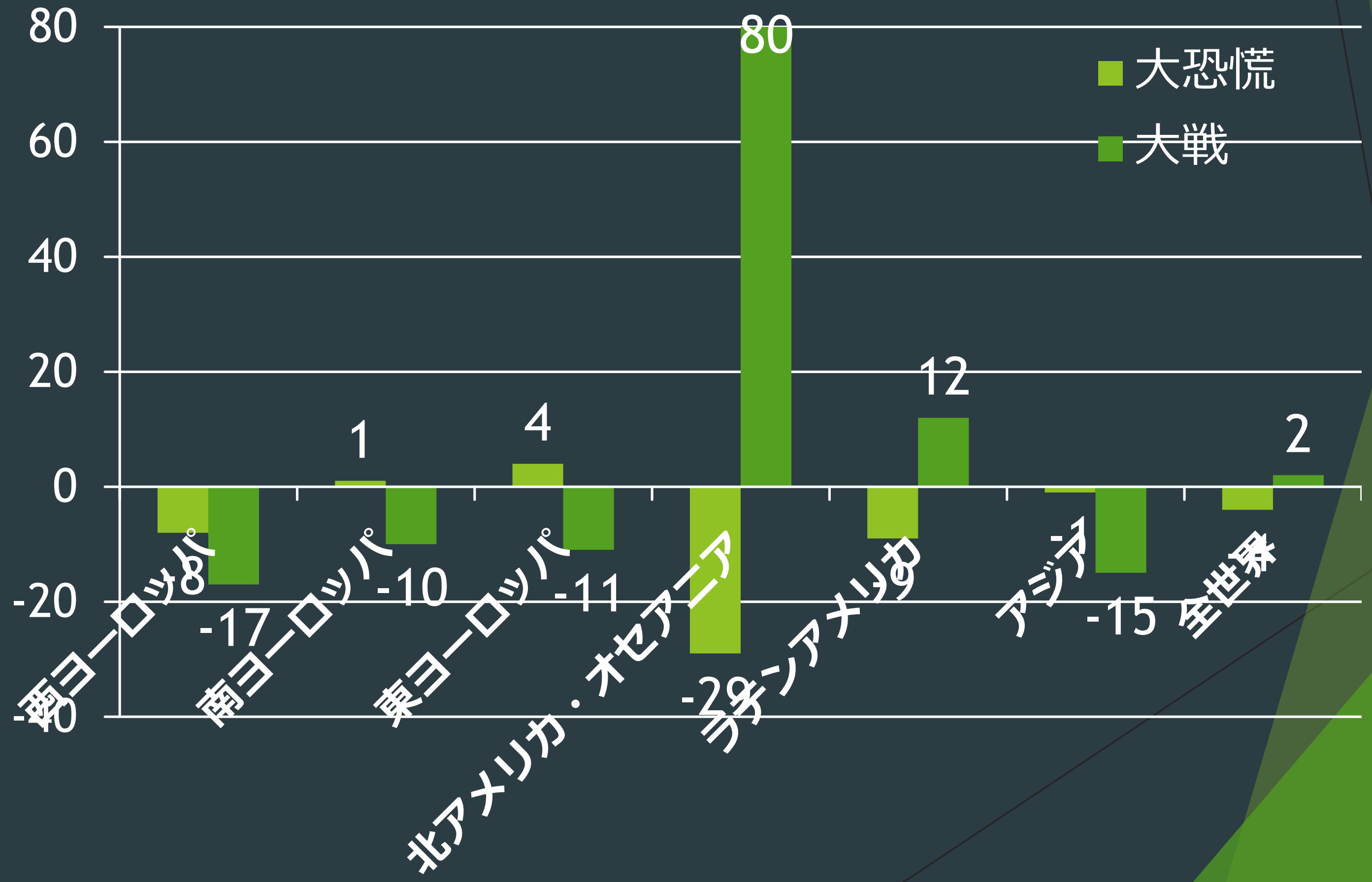
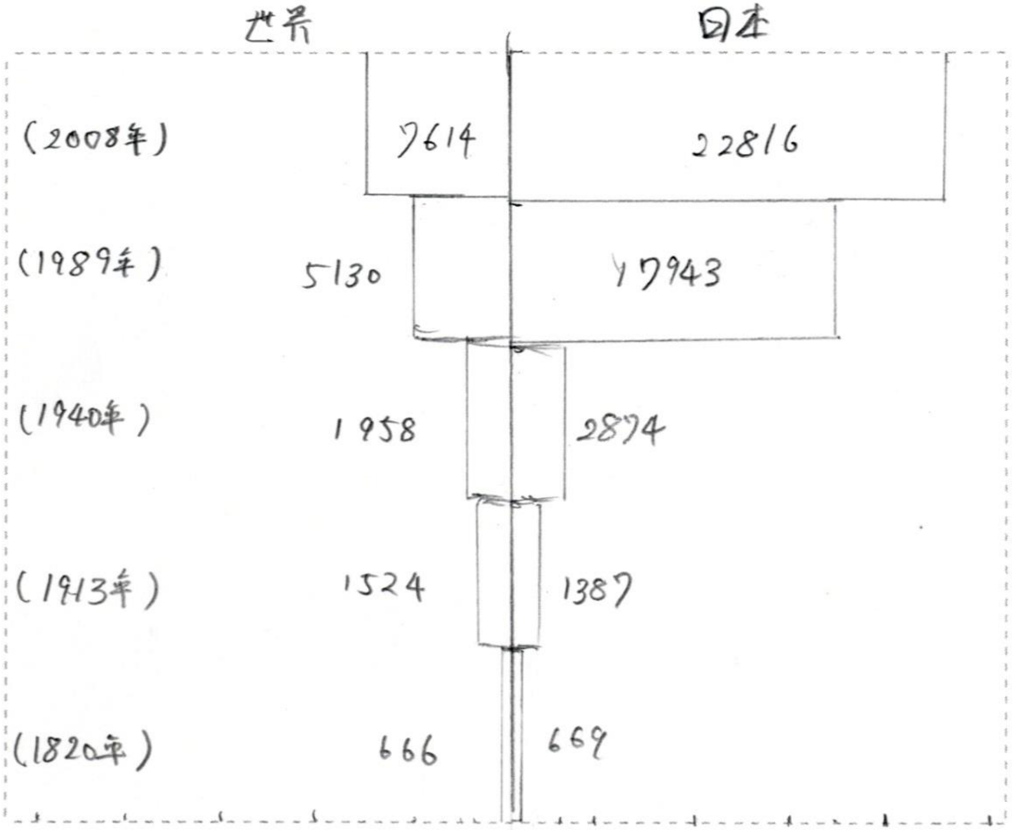
世界をグラフでつかまえる!

優秀賞　7名　を発表します。



面積表示の工夫　M.O.さん

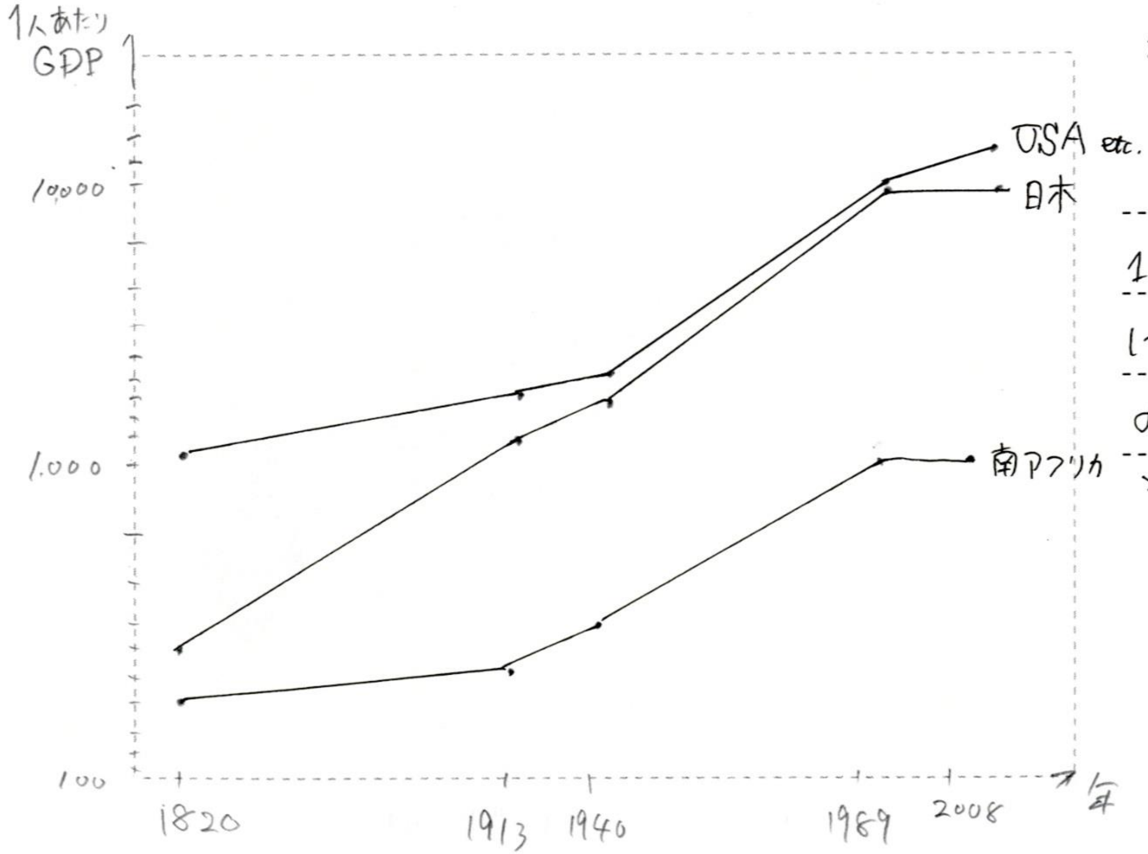
GRAPH 3　これが私のグラフだ！



わかったこと

現在は世界でも有数の富裕国である日本だが、そのGDPは1913年までは世界の平均、つまりは貧国に近い状態であったが、第1次大戦後 そして 2次大戦後の 2つの時期で世界平均を大きくつきはなす革命が起こった。

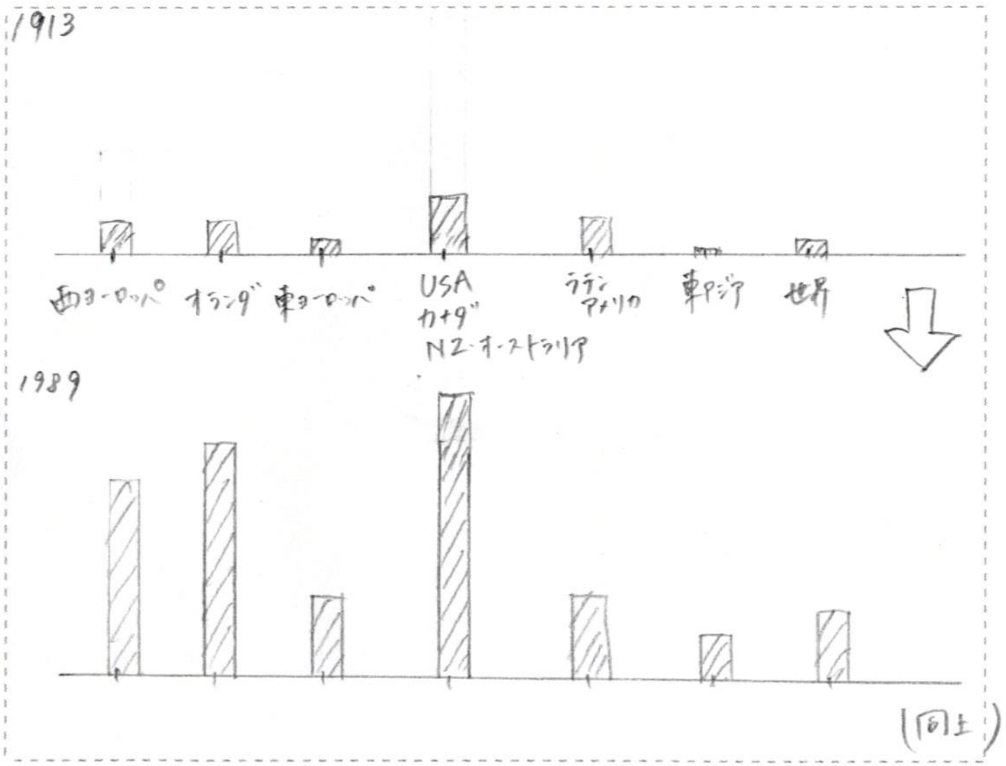
対数表示　S.A.さん



わかったこと

USA,日本,サハラ以南アフリカの1人あたりGDPの経年変化を並列したもの.(対数表示した.) 戦後(1940~)の立ち上がりから、格差が大きく広いていることが読み取れる.

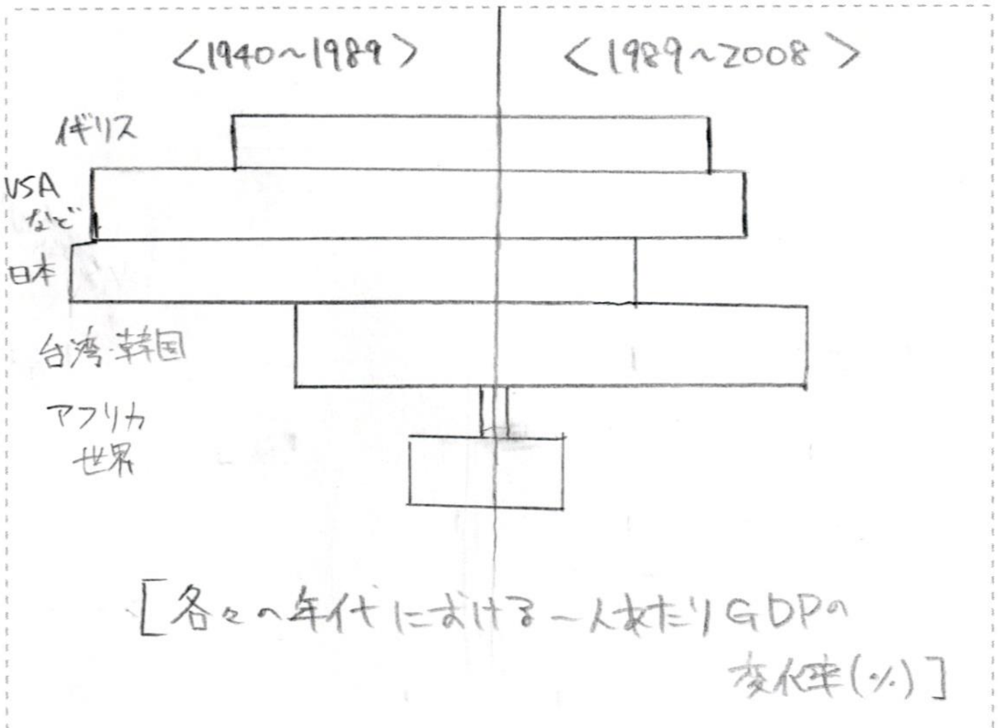
グラフ2　と連動　S.T.さん



わかったこと

大恐慌、第2次大戦を経た各地域、経る前の1人あたりGDPの変化をそれぞれグラフにした。GRAPH2の傾向がしっかりとあらわれる結果となった。

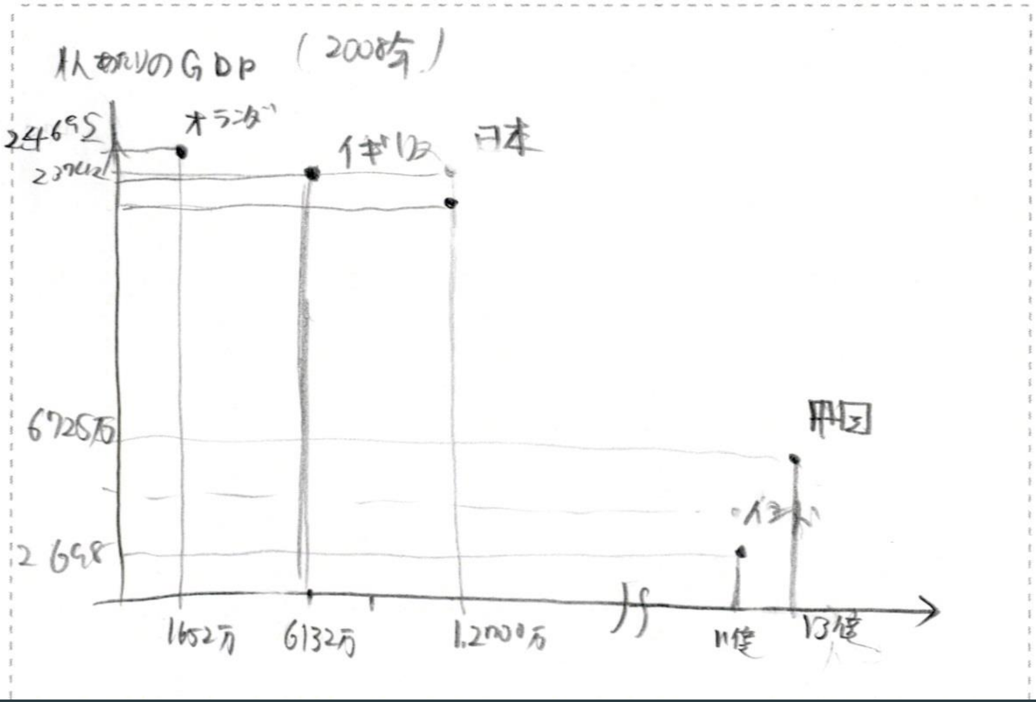
成長の時期　H.Y.さん



わかったこと

世界の各国がどの時期に急成長をしたのかがわかる。台湾などは先進国にくらべあとから発達した。アフリカ等はほとんど変化がないこともわかる。

人口と逆相関　K.K.さん



わかったこと

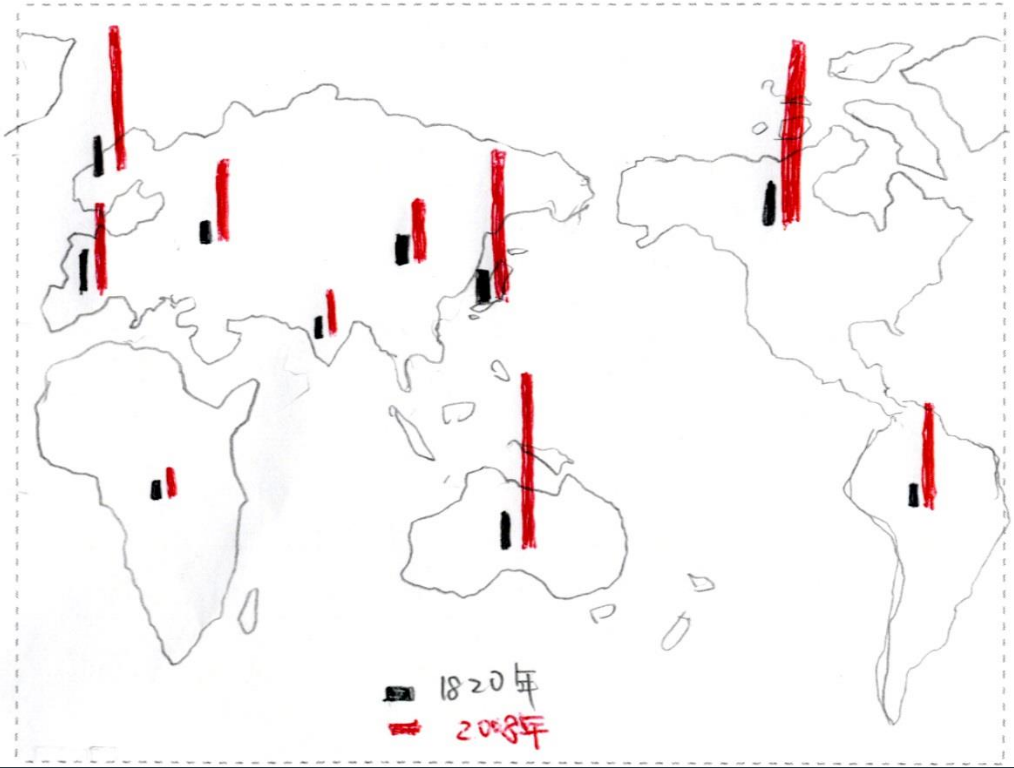
人口が多いほで、GDPが小さく、人口が少なくて、GDPは大きくなる

ピクト効果　Y.M.さん

わかったこと

1820年は、どの国も0.5～2の数値
で比較的平等だったのに対し
年々格差が広がってきている

マップ効果　M.F.さん



わかったこと

世界各地における1820年と2008年の1人あたりGDPの比較を表している。

国全体で輸出輸入がさかんでも人数の多い

中国はあまりのびが見られないが、比較的人口の少ない。オーストラリアやヨーロッパはのびが大きい。

時系列でGDPの推移を折れ線グラフにするのは
王道だけれど、みんながやること。
ユニークな着想で攻めていただいた7名をセレクトしました。

277名という多数のエントリー。
歴史学を選んでくださったみなさまの御期待に添えるように
TAさんともども頑張りますので、半年間よろしくお願いします。

まじょ　こと　山室恭子